

汚染水処理対策委員会
第3回多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会
議事概要

日時：平成29年2月24日（金）10：00～12：00

場所：経済産業省本館17階第2共用会議室

議題：

- (1) 第2回議事録（案）の確認
- (2) 委員及び関係者からのヒアリング
 - ① 小山委員
 - ② 福島県
 - ③ 水産庁
- (3) 地下水バイパス・サブドレンの運用状況について
- (4) その他

出席者：

委員長	山本 一良	名古屋学芸大学教授（名古屋大学 参与・名誉教授）
委員	大西 有三	関西大学 特任教授（京都大学 名誉教授）
	開沼 博	立命館大学衣笠総合研究機構准教授
	柿内 秀樹	（公財）環境科学技術研究所環境影響研究部研究員
	小山 良太	福島大学経済経営学類教授
	関谷 直也	東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター特任准教授 【代理（斎藤特任研究員）】
	田内 広	茨城大学理学部教授
	辰巳 菊子	（公社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 常任顧問
	森田 貴己	（国研）水産研究・教育機構 中央水産研究所 海洋・生態系研究センター 放射能調査グループ グループ長
	山西 敏彦	（国研）量子科学技術研究開発機構 核融合エネルギー研究開発部門ブランケット研究開発部長
	山本 徳洋	（国研）日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所長
事業者	松本 純	東京電力ホールディングス（株） 福島第一廃炉推進カンパニーバイスプレジデント
オブザーバー	辻 昭弘	外務省軍縮不拡散・科学部 国際原子力協力室長
	緒方 弘志	農林水産省大臣官房文書課災害総合対策室長
	竹葉 有記	水産庁増殖推進部研究指導課長
	今井 俊博	原子力規制庁東京電力福島第一原子力発電所事故対策室長

鴨志田 守 原子力損害賠償・廃炉等支援機構技術グループ審議役
菅野 信志 福島県危機管理部原子力安全対策課長【代理(河井原子力専門員)】

廃炉・汚染水対策チーム事務局：

田中チーム事務局長補佐、尾澤チーム事務局長補佐、湯本事務局総括、秦廃炉・汚染水対策官、柿崎企画官

議事概要：

- 事務局から、資料1を各委員に諮り、定稿。
- 小山委員から、資料2について説明。
- 福島県酒井主幹から、資料3について説明。
- 水産庁竹葉課長から、資料4について説明。
- 松本東京電力ホールディングス(株)福島第一廃炉カンパニーバイスプレジデントから、資料5について説明。

(2) 委員及び関係者からのヒアリング

①小山委員

- ・消費者へのアンケート結果では、放射性物質検査済みであることや検査体制が表示されているなどの項目が必要な情報の上位にあるが、販売側からすると、このような余分なコストをかけないと商品は買ってもらえないということか。
- アンケート調査に加え、ヒアリングも実施しているが、消費者は産地をそれほど気にせず、大手の企業が取り扱っている食品は安全であると思っている。食品のトレーサビリティを確認する消費者はいない。業者がちゃんと検査していることさえわかれば消費者は購入する。
- ・消費者の消費行動に関して、アンケート調査では賢く答える傾向になる。8割以上の方が良いモノを買うというアンケート結果にもかかわらず、市場が動かないこともあった。また、この小委員会に流通業者がいないことは残念。大半の消費者はスーパー等から購入している。流通段階で放射性物質の検査をしていることで安心していると思う。一方、流通業界と消費者の思いは同じではない。例えば、容器包装の印刷のずれ、ペットボトルのシールのずれなど商品とは直接関係ないことで返品になることもある。そういう意味で、消費者の本当の思いが流通業界に伝わっていない。流通業界は厳しめに判断する。流通の責任は重いと思った。
- ・BSEなどの風評の先行事例では、消費行動や流通構造の変化などについて、どうやって克服してきたのか。また、先般の530シーベルト、650シーベルトの報道については、国内は一時的に多少混乱したが冷静に対応できたが、国外では、福島への航空業界の渡航自粛が起きるなど、国外はより風評のハードルが高いと思うが、その点どうお考えか。

→海外の風評は大きく近隣諸国とその他の離れた地域に分かれる。チェルノブイリでは近隣諸国ほど不安で、未だに恐れており、ベラルーシ政府は近隣諸国に報告書を出し続けている。日本も同様で、韓国、中国、台湾の近隣諸国は非常に気にしており、誤解を解くようなメッセージの出し方が必要。特に近隣諸国は、日本の発信する情報は信頼できないという視点で見ていることに留意するべき。BSEでは、時間の経過に伴って、問題なく風化していった。しかし、原子力災害では風化しない。水素爆発の映像を多くの方が強烈に覚えており、その後の様々な取り組みは風化してしまうが、放射線の問題は継続する。30年前に起きたチェルノブイリも、単純に風化しないと思っている。

・近隣諸国への説明は非常に重要。韓国が2013年に規制を厳しくしたが、2013年に何か事件があったわけではなく、汚染された地下水が漏洩していたことを公表したことが原因。しっかり状況説明していくことが大事。

・650シーベルトの報道は海外で色々な反応があった。中国との関係では、上海の総領事館がQAを作り、大使館を通じて、その都度状況を説明している。近隣諸国には、できるだけタイムリーに行うべく、日頃からの情報発信の方策を考えていくべきことだと考えている。

②福島県

・きゅうりだけ価格が事故前に回復し、桃が回復していない理由は何か。

→きゅうりは、福島県産品しかない収穫時期があるため、福島県産に対する需要も高い。また、あんぽ柿も、そもそも非常にシェアが高く、寡占状態でもあるため、価格も戻ってきている。一方、桃は、同じ時期に他県産により需給バランスが保たれており、あえて福島県産を求める必要がない。

・福島のパック旅行は関西に住んでいるとほとんど見かけない。震災以降、ずっと回復していないなら、もっと宣伝したら良い。

→震災の記憶が固着してしまっているため、まだまだイメージから脱却できていないところもある。観光業とも連携しながらやっていきたい。

・需給バランスで価格が決まるということは、放射性物質の検査の実施で、安全なのは当たり前になっているということか。

→お米については外食産業に4割ほど回っている、外食産業の方々は、福島県産のお米が美味しいことがわかっているから、価格が低いなら購入する。一方、流通の方が嫌がるのは1人でも2人でも苦情があるとそのリスクを考慮する。福島県産を買わない人が15~16%で固定化してしまった。こういった人達は安全性をいくらアピールして

も買ってもらえない。産地は問わない人達に対して、一つ一つ理解を進め、ブランド価値を上げていくことが大事と考えている。

- ・資料としては、風評による経済損失がメインだったが、前回プレゼンさせていただいたとおり、デマ・差別の話もある。当初、闇に葬られようとしたが、昨今の横浜の小学校のいじめの問題、関西学院大学の学生への嫌がらせの問題もある。経済的な話とは別にデマ・差別に関する対策を打つ時期に来ているのではないかと、まずは事案をちゃんと情報共有するタイミングでもあり、そういう事実を纏めていくことも大事。
- まずは実態を把握し、その全容について情報収集に努めたい。データベースにするなど今後検討したい。

③水産庁

- ・海外の輸入停止が継続しているとのこと。あまり停止の根拠はないというご発言があったが、こういう基準なら解除しているという解除の基準を示している国はあるのか。
- そういう条件としては、輸入停止国にもしっかり安全性が確保されたらという言い分があると思うが、科学的根拠に基づかない規制については、国際的なルールに基づき安全なんですよという説明はしっかり行っていく。

- ・出荷制限がかかっている淡水魚は海外では危険なもの扱われるが、普通は食用に流通している淡水魚は養殖であり、安全であることについて情報発信が少ない。また、淡水魚の出荷制限により、遊漁（つり）ができなくなり、例えば、わかさぎ釣りなどの観光業にも影響してくる。出荷制限が未だにかかっている魚種には、出荷制限を解除するために必要な検体数が確保できないこと等から、解除できないという実情もある。そういうところの情報発信の難しさもある。漁獲量の話で、資料 22 ページは大変重要な話。魚価が下がってしまうと、同じ量を採り続けても経営が成り立たない。それならもっと量を採ろうとすると、資源が枯渇してしまい、負のスパイラルに陥る。福島の漁業は、非常に脆弱なギリギリな状態にある。

- ・26 ページについてだが、トリチウムに関して、どういうモニタリングができるのか検討しているのか。モニタリング体制の構築を検討すべき。
- トリチウムが魚の中にどれだけあるかのバックグラウンドデータは有している。モニタリングについては、しっかり検討したい。

- ・小山委員の話で、代替産品があると負ける実態があった。福島県の農業は、震災前、日本でもかなり上位の生産量を誇っていて、もともと競争力があつたが、水産業は 20 数番目くらいで農業ほど競争力はない。競争力のある農業以上に、水産業はさらに厳しい状況になる可能性がある。

- ・出荷制限の魚種があることの説明が十分されていない。1つの魚種が良くて、1つの魚種がダメというのは全く理解できない。「出荷制限」、「試験操業」という言葉がよく出てくる。関係者の皆さんは当たり前のように発言されるが、消費者には全く理解できていない。本日、出荷制限の考え方をご説明いただいたが、消費者の「出荷制限」に対する受け止め方は全然違う。皆さんが当たり前のように使っている単語について、わかりやすく説明し、理解を進めていくことの1つの取組だと思う。

(3) 地下水バイパス・サブドレンの運用状況について

- ・特にコメント無し。

以上